

「私が自立出来ない女の子だから？」

「⁽³⁾そうとは言っていないよ。私達はただお前が一人で住むことに対して、心配しているだけさ」「そう言ってくれて、ありがとう」私は守られることを好まない10代の少年のように言った。

一人暮らしをする準備はできているし、親が心配すべき普通の女の子と比べて、私は強い、と思っていた。自室全体をきれいに_{4a}保ち、洗濯を_{4b}して、毎週、ごみを_{4c}出すべきだ、ということを私は忘れないだろう。それから、自分の部屋と料理の写真を送るべきだ、ということもわかっていた。母親に、いかに私の生活が整頓されていて、健全であるかを示すだけのために。それは⁽⁵⁾私の兄が、ちょうど彼が出発する前に、かつて私に告げたことだった。彼は常に自立したがっていて、それが5年前に彼が我が家を出た理由だった。

さて、私の出発の時間になった。スヌープを含めて、全員が入り口周辺に集合した。

母が言った。「近所の人には親切で、思いやりを持って接するようにね」

「そうしない理由などないわ。_{6a}ウ敵をつくりたい人などいないわ」

「洗濯を干す前に、天気予報を確認してね」

「もちろんよ。_{6b}エ私の朝食はいつだってテレビと一緒にだわ、わかっていると思うけれど」

「健康のために良いものを食べなさい」私はうなずいた。

「たまには、連絡するようにね」

私はちゅうちょしたが、「そうするわ」と何とか答えた。

「物事が困難すぎるようを感じた時には、戻る場所がある、ということだけは覚えていてね」

私は答えようとしたが、突然、目から涙が湧き上がってくるのがわかった。私の心が突然の不安で満たされるのを感じた：自分自身で本当に生きていけるのだろうか？ 本当に責任をもって行動することが可能なのだろうか。⁽⁷⁾私には、全く見当もつかなかった。その時になって、急に物事が困難に思えてきたのだ。

母は私が不安になっているのを見ると、私の首に彼女の腕を回した。

「私は彼のようではないわ」私の唇から言葉が漏れた。

「不安になった際に、⁽⁸⁾平静を装うのに長けた人がいるということだけだわ。実際、何かを言いたい時には、いまだにジムは私やお父さんに電話をかけてくるのよ。彼の話を聞くのは、とても心地よいものだとは言えないわ。上司が卑劣だととか、仕事がつまらないとか、⁽⁹⁾いかに_{9c}今よりも_{9b}以前の方が_{9a}彼の生活は良かったとか、そんなことを彼はいつも言ってくるのよ。でも、そのことが彼の助けに大いになっていて、私たちはそのことを喜んでいるの。時には、彼はその日の料理の写真でさえ送ってくるのよ」

私は笑った。彼も、孤独を感じたくなかったのだ！

「最も重要なことは、あなたを支えてくれる人が常にいる、ということを、知っていることなのよ」と母は言った。

「ジムは自分でそのことを知っていたの。そして、あなたもそうであるべきなのよ

「そうね、お母さん。⁽¹⁰⁾言われたようにするわ」

家を後にする際も、克服すべきとても多くのことがあるのではないかと、依然として私は不安を抱えたままだった。でも、同時に、新しい場所で、私の最初の料理の写真を撮影することを楽しみに思った。

基本 問1 say to O that ~ 「～ということをOに言う」 <be動詞 + going + 不定詞> 「～するつもりである、しそうである」 in 「(今から)～たって」

やや難 問2 a dangerous man が a dangerous person へと置き換えられていることから考える。
gender bias 「性別による偏見」 living 「生活(様式)」 meaningful 「意味のある」 lonely

「孤独な」

- やや難** 間3 that は直前の文を受けている。<unable + 不定詞> 「～できない」 stand up for oneself 「自分の身を守る」(正解) ウ「十分に強くない」 ア「一人で生活しなければならない」 <have + 不定詞> 「～しなければならない, にちがいない」 イ「注意すべきだ」 watch out 「用心する」 エ「少年のようだ」
- 基本** 間4 keep my room clean keep O C 「OをCの状態に保つ」 do the laundry 「洗濯をする」 take out the garbage 「ごみを出す」
- やや難** 間5 兄 ; 5年前に家を出る。←下線部(5)を含む段落。名前は Jim(ジム)。←下線部(9)を含む段落。cf. 主人公 ; Jessica 両親 弟 ; Jack 犬 ; Snoop
- やや難** 間6 「近所の人には親切に」 / 「そうしない理由などない[Why wouldn't I?]」。_{6a} 敵をつくりた
い人などいない。[No one likes making enemies.]」 / 「洗濯を干す前に、天気予報を確認し
なさい」 / 「もちろん。_{6b} 私の朝食はいつだってテレビと一緒に。[My breakfast is always
with TV.]」 ア「私は注意深くない」 イ「すべきでない」 オ「他の人々に好かれてはいけない」
must not 「～してはいけない」 <助動詞 + be + 過去分詞> 助動詞付きの文の受動態
- 基本** 間7 「突然の不安を感じた：自身だけで生きていけるのだろうか？」 責任をもって行動することが
可能なのか？₍₇₎ まったく見当がつかなかった」という文脈から判断すること。worried 「心
配」 excited 「わくわくして」 uninterested 「無関心な」 surprised 「驚いて」
- やや難** 間8 put on [show] a brave [bold/good] front 「大胆な態度を装う、平静を保つ、虚勢を張る」
be better at ← be good at 「～が得意[得意]だ」 better 「より良く[良い]」 good/well の比
較級
- やや難** 間9 不平を漏らしている箇所であることから、「いかに彼の生活が今と比べて以前の方が良かつ
た」という意味の文を完成させることになる。
- やや難** 間10 言われていないことが、含まれていないものに該当するので、正解は、「私があなたを支援
しているということを私は理解するだろう」。<be動詞 + -ing>進行形 ア「私の料理の写真
をあなたに送るだろう」 ウ「心配をより感じないように全力を尽くすだろう」 try one's best
「全力を尽くす」 less 「より少なく[少ない]」 little の比較級 エ「一人でないということを覚
えておく」

重要 【3】 (文法 : 語句補充・選択, 前置詞, 助動詞)

- (1) 「彼は10年前にロサンゼルスを訪れた[visited]」 visit O 「Oを訪れる」 go/live/stay の
直後に、名詞を直接持ってくることはできない。fly O 「Oを飛ばす」の意味になり、不可。
- (2) 「人類は1969年7月20日に月に到達した」 <on + 年月日>
- (3) 「この川で魚を釣っても良いですか」「いいえ、いけません」 must not 「～してはいけない」
<have + 不定詞>の否定形 = <need not + 原形> 「～する必要はない」 may 「～かもしれない,
してもよい」
- (4) 「私の友人は2匹の犬を飼っている。一匹は黒で、残りの一匹は茶色だ」「残りの1匹[つ／人]」
= the other the others 「残り全匹」 残りの犬が複数いることになるので、不可。other/another/others は、the が付いておらず、2匹以外の犬も存在することになるので、不可。
- (5) 「どのくらいの頻度で[how often]ギターを弾きますか」「1週間に4回です」 How long ~?
長さ・時間を尋ねる表現。 <How many + 複数名詞 ~?> 数を尋ねる表現。 How much
~? 値段・量を尋ねる表現。

重要 【4】 (文法・作文 : 関係代名詞, 現在完了, 比較, 動名詞, 不定詞, 間接疑問文)

- (1) Show me the pictures you took in(Paris.) show O₁ O₂ 「O₁にO₂を示す」 <先行詞 + 主